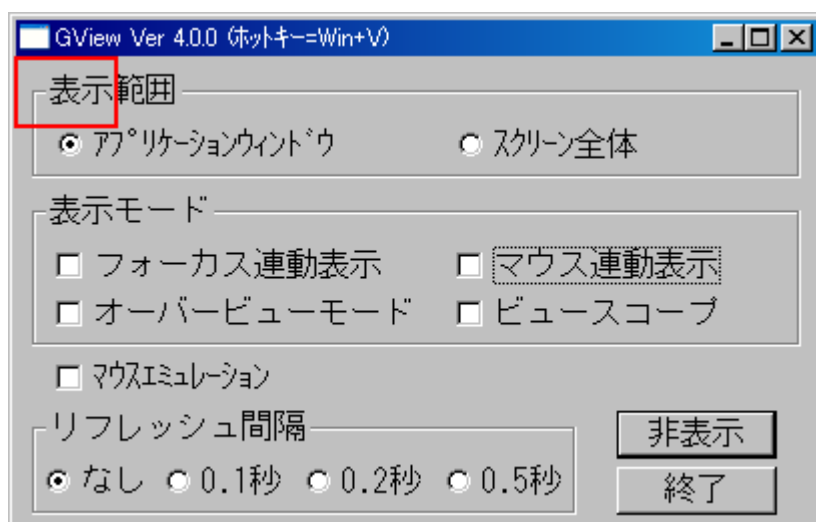
点図ディスプレイ用ソフトウェア

GView （DV-1 版） Ver. 4.0

取　扱　説　明　書

点字文化を推進するＫＧＳから

新しい提案

ケージーエス株式会社

〔目次〕

この製品に関しての問い合わせ先

ケージーエス株式会社

〒355－0321　埼玉県比企郡小川町小川1004
TEL：0493（72）7311　FAX：0493（72）7337

e-Mail : info@kgs-jpn.co.jp　　URL : www.kgs-jpn.co.jp

第１章GView Ver. 4.0

１－１ GView の概要

GView は、Windows システムの画面情報を点図ディスプレイに表示するためのソフトウェアです。対応 OS は、Windows XP～Windows7 です。

表示の対象範囲としては、今アクティヴになっているアプリケーションウィンドウまたはデスクトップ（画面全体）を選択することができます。

その範囲の一部または全体を、拡大率を変更したり、点図表示をスクロールさせながら触読します。また、画面上の表示内容が変化した時、自動的に点図ディスプレイ側の表示を更新する「リフレッシュ機能」を用意しています。

点図ディスプレイ上の表示位置や表示条件は各ウィンドウ毎に記憶されていますので、一度フォーカスが別のアプリケーションに移動しても、次に戻って来た時には前と同じ表示に戻ります。GView が起動すると、画面には現在点図表示されている範囲（スタートメニュー,タスクバーを除く）を赤い枠で示す「ビューフレーム」が表示されます。ビューフレームの表示／非表示は、GView のメニューから切り替えることができます。

GView の便利な機能として「オーバービューモード」､「マウスエミュレーション」､「フォーカス連動」､「マウス連動」などの機能があります。「オーバービューモード」では、ウィンドウ全体のイメージを圧縮表示で見ながら、効率的に拡大表示する部分を選択することができます。

また､「マウスエミュレーション機能」を使うと、点図ディスプレイの表示を頼りにマウスの操作を行なうことができます。

更に「フォーカス連動」や「マウス連動」の機能を有効にしておくと、キーボードフォーカスやマウスポインタの動きに追従して、その周りのイメージを点図ディスプレイに表示させることができます。

１－２ はじめて使用されるときには

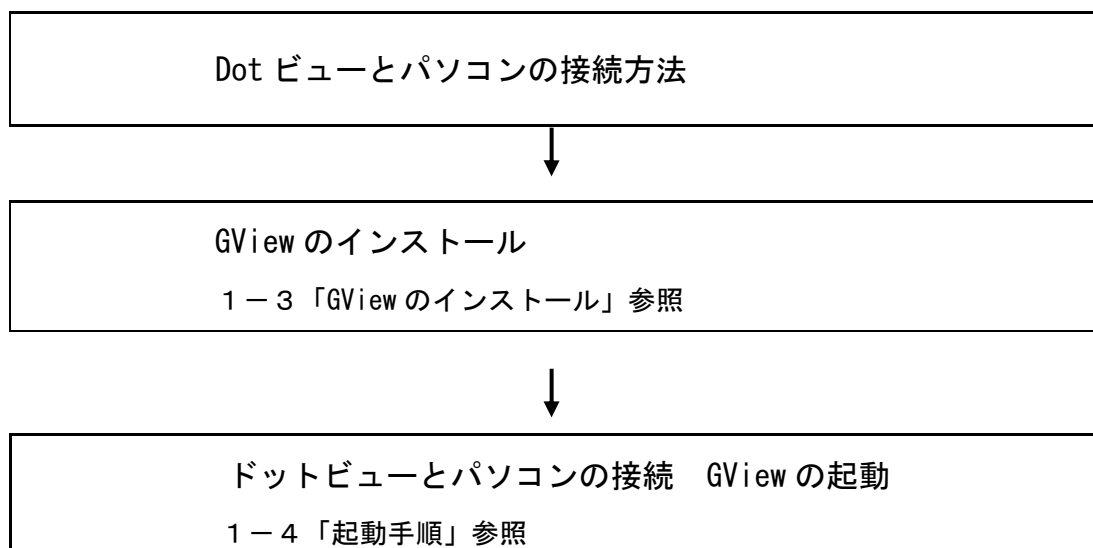
GView をはじめて使用されるときには､お使いのパソコンにプログラムをインストールする必要があります。次の手順でインストールを行ってください。

Dot ビューとパソコンの接続方法

↓

GView のインストール
１－３「GView のインストール」参照

↓

ドットビューとパソコンの接続　GView の起動
１－４「起動手順」参照

１－３ GViewのインストール

以下の手順でGViewのインストールを行ってください。

① パソコンを起動します。
② 本機付属のＣＤをドライブに挿入します。すると、「ドットビュー メインページ」が表示されます。
③ このページから、「ドットビュー用ユーティリティのインストール」を選択します。
④ するとインストーラが起動しますので、その指示に従ってインストールを行なってください。

１－４ 起動手順

GViewをご使用の際は、次の手順で起動してください。

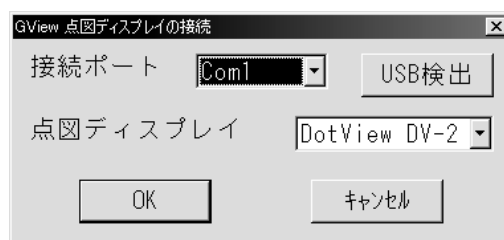
１）ドットビューとパソコンの接続

ドットビューDV-1をパソコンと接続する場合は、次の手順で接続してください。

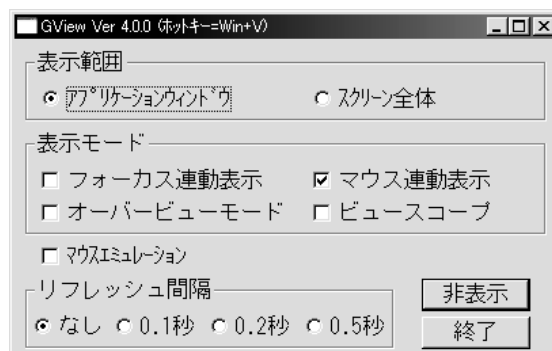
① パソコンを起動します。
② 「ドットビューDV-1」とパソコンを、付属のRS-232Cクロスケーブルで接続します。
③ 双方の電源スイッチをオンにします。

２）GViewの起動

パソコン上で、GViewを実行してください。
GViewを起動すると、次のようなダイアローグボックスが表示されます。

- 接続ポート（コンボボックス）
  Com1～Com64
- 点図ディスプレイ
  「DV-1」 ／ 「DV-2」 ／ 「GD-64X48」
- OK（ボタン）
- キャンセル（ボタン）

ここで、点図ディスプレイに「DV-1」または「DV-2」を、接続ポートに「ドットビュー」を接続している通信ポートを選択して、[ＯＫ] キーを押してください。

ＵＳＢで接続している場合は、「ＵＳＢ検出」ボタンを押してドットビューが接続されている通信ポートの番号を調べることができます。

すると、GViewのメインウィンドウが表示され、点図表示が開始されます。

１－５ GViewの操作方法

１）表示範囲の選択

GViewには、前面に表示されているアプリケーションウィンドウ（フォアグラウンドウィンドウ）を表示するモードと、デスクトップ（スクリーン全体）を表示するモードがあります。これらの切り替えは、以下の操作で行ないます。

モード切り替え

左キー＋下キー	「アプリケーションウィンドウ」表示モード（起動時の設定）
左キー＋右キー＋下キー	「デスクトップ」表示モードでアプリケーションウィンドウを表示
右キー＋下キー	デスクトップ」表示モード

２）表示範囲のスクロールと移動

点図ディスプレイの表示範囲をスクロールするには、次のように操作します。

表示範囲のスクロール

方向レバー	１ドット単位のスクロール
矢印キー	半画面単位のスクロール

指定位置に移動

親指キー ＋ Home キー（DV-2 の場合） 親指キー ＋ 上キー	ウィンドウの上隅
親指キー ＋ End キー（DV-2 の場合） 親指キー ＋ 下キー	ウィンドウの下隅
Home キー（DV-2 の場合） 親指キー ＋ 左キー	ウィンドウの左隅
End キー（DV-2 の場合） 親指キー ＋ 右キー	ウィンドウの右隅

３）拡大率の変更

点図ディスプレイの表示を拡大／縮小するには、以下のように操作します。
この場合、可能な限り、点図表示の中心を固定する形で拡大／縮小されます。

拡大／縮小

拡大キー（DV-2 の場合） センターキー	拡大（２倍表示）
縮小キー（DV-2 の場合） 親指キー ＋ センターキー	縮小（1/2 表示）

４）フォーカス連動機能とマウス連動機能

フォーカス連動機能は、アプリケーションウィンドウの中でフォーカスを持つウィンドウが移動したり、エディットウィンドウの中でキャレット（文字の入力移置を示すカーソル）が移動した時、点図表示をそれらに追従して移動する機能です。
また、マウス連動機能は、マウスポインタの動きに追従して、点図表示を移動する機能です。
これらの機能を開始／終了するには、次のように操作します。

フォーカス連動・マウス連動

親指キー ＋ 左キー＋下キー	フォーカス連動開始
左キー＋下キー（アプリケーションウィンドウモード）	フォーカス連動終了
左キー+右キー ＋ センターキー	マウス連動開始
親指キー ＋ 左キー+右キー ＋ センターキー	マウス連動終了

なお、フォーカス連動状態では、表示範囲の移動機能が以下のように変化します。

フォーカス連動時の移動

親指キー ＋ 左キー	フォーカスウィンドウの左隅
親指キー ＋ 右キー	フォーカスウィンドウの右隅
親指キー ＋ 上キー	フォーカスウィンドウの上隅
親指キー ＋ 下キー	フォーカスウィンドウの下隅

（注意）点図表示のキャレットへの追従は、システムのキャレット表示機能を利用しているアプリケーションでのみ有効です。キャレットの表示を独自の方法で行なっている一部のアプリケーションでは、フォーカス連動機能により、点図表示をキャレットに追従させることはできません（例：マイクロソフト ワードMicrosoft Word）。

5）「オーバービューモード」と「ビュースコープ」

「オーバービューモード」は、ウィンドウ全体を圧縮表示し、ビュースコープを使ってその中から拡大表示する部分を選択できる機能です。
オーバービューモードに入ると、ウィンドウ全体が圧縮表示され、その中の今まで表示していた部分にピンの震動した長方形が表示されます。この長方形が「ビュースコープ」です。ここで、ビュースコープの移動、拡大 / 縮小することができます。ビュースコープを目的の場所に移動できたら、オーバービューモードを終了します。

ビュースコープが表示されている状態では、親指キーを押している間ビュースコープ以外の表示が中断されます。この機能を使用すると、ビュースコープの位置が分からない時、ビュースコープをより簡単に見つけることができます。

なお、オーバービューモードではビュースコープの表示／非表示、を切り替えることができます。クライアント領域（ウィンドウの枠の内部）またはフォーカスウィンドウ（フォーカス連動状態の時）を圧縮表示することができます。

オーバービューモード

上キー＋右キー	オーバービューモード開始
再度上キー＋右キー	オーバービューモード終了
親指キーを押している間	ビュースコープ以外の表示が中断
上キー＋左キー	ビュースコープ表示／非表示
親指キー ＋ 上キー＋左キー	クライアント領域、フォーカスウィンドウの縮表示

6）二値化条件の調節

「二値化条件」とは、カラー画像情報を点図ディスプレイ上の各ピンのオン／オフに変換

する際の変換条件のことです。二値化条件には、「閾値」（しきいち）と、「二値化モード」の２つの設定があります。

「閾値」（しきいち）は点を出すか出さないかを決める境介となる明るさで、0 から 255 までの 256 段階で設定できます。「自動調節」機能をオンにしておくと、閾値は表示する画像に合わせて自動的に調節されます。また、今表示している部分の色の分布を「明暗分布」表示で確認しながら、閾値を手動で調節することができます。

二値化条件の調節

上キー＋下キー	自動調節機能＝オン（起動時の設定）
親指キー ＋ 上キー＋下キー	自動調節機能＝オフ
ステータスキー	明暗分布表示のオン／オフ
ステータスキーを長く押した状態	明暗分布表示
明暗分布表示状態で、 上キー	閾値を１段階ふやす
明暗分布表示状態で 下キー	閾値を１段階減らす

閾値を手動で変更すると、自動調節機能はオフになります。

「二値化モード」には、「明点」（閾値より明るい点）、「閾値」、「暗点」（閾値より暗い点）のそれぞれを出すか出さないかを指定する６種類の選択肢があります。

二値化モードの設定

上キー ＋ センターキー	「明点」を表示
親指キー ＋ 上キー ＋ センターキー	「明点」と「閾値」を表示
下キー ＋ センターキー	「暗点」を表示
親指キー ＋ 下キー ＋ センターキー	「暗点」と「閾値」を表示
上キー＋下キー ＋ センターキー	「明点」と「暗点」を表示
親指キー ＋ 上キー＋下キー ＋ センターキー	「閾値」を表示

「自動調節」機能をオンにしておくと、二値化モードは以下のように設定されます。
閾値の点が半分以上の時「明点」と「暗点」を表示
閾値の点が半分未満の時「明点」と「暗点」の内、点の数が多い方を表示
なお、二値化モードを手動で変更すると、自動調節機能はオフになります。

７）表示条件の保存と再現

今の表示位置や拡大率などの情報を保存しておいて、後で呼び出すことができます。
この情報は、アプリケーション毎に記憶されます。

表示条件の保存と再現

左キー＋上キー＋下キー	表示条件の保存
右キー＋上キー＋下キー	表示条件の再現

８）マウスエミュレーション機能

「マウスエミュレーション」機能は、点図ディスプレイ上にマウスポインタを表示して、マウスの操作を擬似的に行なえるようにするものです。
マウスエミュレーションを開始または終了するには、次のように操作します。

マウスエミュレーションを開始・終了

左キー＋右キー	マウスエミュレーションの開始
親指キー ＋ 左キー＋右キー	マウスエミュレーションの終了

「マウスエミュレーション」モードに入ると、点図ディスプレイの中央に「＋」の形のマウスポインタが表示されます。
この状態では、以下の操作が可能です。

マウスポインタの移動

方向レバー	１ドット単位の移動
親指キー ＋ 方向レバー	マウスポインタと表示範囲を併せて移動
矢印キー	半画面単位の移動

指定した位置に移動

親指キー ＋ 左キー	ウィンドウの左隅
親指キー ＋ 右キー	ウィンドウの右隅
親指キー ＋ 上キー	ウィンドウの上隅
親指キー ＋ 下キー	ウィンドウの下隅

クリック／ドラッグ

左キー ＋ センターキー	左クリック、または左ドラッグの終了
右キー ＋ センターキー	右クリック、または右ドラッグの終了
親指キー ＋ 左キー ＋ センターキー	左ドラッグの開始
親指キー ＋ 右キー ＋ センターキー	右ドラッグの開始

（注意）
キーボードから操作される場合は、その前にマウスのドラッグを終了してください。

マウスポインタを中心とする拡大／縮小

センターキー	拡大（２倍表示）
親指キー ＋ センターキー	縮小（1/2 表示）

なお、親指キーを押している間マウスポインタの表示は中断されます。
この機能は、マウスポインタと重なった部分の表示を確認したい時便利です。
また、アプリケーションウィンドウモードでは、次の操作で画面に表示されているマウスポインタの形を確認することができます。

マウスポインタの確認

方向レバーの押下	マウスポインタ表示のオン／オフ
方向レバーを長く押した状態	マウスポインタ表示

９）ウィンドウイメージの保存

今表示しているウィンドウのイメージをビットマップデータとして保存しておき、後で再現することができます。
保存を行なうと、別のアプリケーション"BmpView"（ビットマップビュー）が起動し、GView で表示していたウィンドウイメージを引き継いで表示します。BmpView では、このイメージを

ファイルに保存したり、プリンタで印刷することができます。

ウィンドウイメージの保存

上キー+左キー+右キー +センターキー	ウィンドウ全体の保存
上キー+左キー+右キー	クライアント領域（ウィンドウの枠の内部）の保存

１０）　リフレッシュレートの変更

「リフレッシュ機能」は、画面上の表示内容が変化した時、自動的に点図ディスプレイ側の表示を更新する機能です。リフレッシュレートは、「なし」,「0.1 秒」,「0.2 秒」,「0.5 秒」のいずれかを選択することができます。
「なし」を選択している場合、画面が変化しても、点図表示は更新されません。
「0.1 秒」～「0.5 秒」を選択している場合、点図表示はその間隔で常に更新されます。
ただし、前のリフレッシュ処理が終了していない場合には、終了してから次の処理に入るため、リフレッシュ間隔が長くなります。

リフレッシュの設定を変更するには、次のように操作します。

リフレッシュの設定を変更

ステータスキー ＋ 左キー ＋ 右キー	「なし」
ステータスキー ＋ 左キー	「0.2 秒」
ステータスキー ＋ 右キー	「0.5 秒」

１１）　基本設定に戻す

キー操作で GView の各設定を基本設定に戻すことができます。

各設定を戻す

上下左右キーとセンターキー	設定を基本設定に戻す

基本設定

マウス連動	オフ
フォーカス連動	オフ
マウスエミュレーション	オフ
オーバービューモード	オフ
拡大率	1
二値化条件の自動調節	オン
リフレッシュレート	0.2 秒

１－６ ステータスの表示

ステータス表示では、現在の表示範囲や拡大率など、GView の様々な設定情報が点字で表示されます。また、ステータス表示には４種類のページがあります。
ステータス情報の表示・ページに移動には以下のように操作します。

ステータス情報を表示

ステータスキー ＋ 親指キー	ステータス情報のオン／オフ
ステータスキー ＋ 親指キーを長く押	ステータス情報を表示

した状態	
左キーまたは右キー	ステータス情報のページに移動

１ページ目

ステータス情報（１）

1行目	「ステータス１」
2行目 3行目	位置情報 「X　ｎｎｎｎ」…ウィンドウ内での左右位置 「Y　ｎｎｎｎ」…ウィンドウ内での上下位置 オーバービューモードの時 　　ビュースコープの左上位置 マウスエミュレーションモードの時 　　マウスポインタの位置 その他 　　表示範囲の左上の位置
4行目	拡大率 「D　ｎｎ」 拡大率（点図の１ドットに対応する画面上のピクセル数）
5行目	表示モード 「W」アプリケーションウィンドウ表示モード 「F」アプリケーションウィンドウ表示モード 　（フォーカス連動状態） 「D」デスクトップ表示モード 「V」オーバービューモード 「H」オーバービューモード 　（ビュースコープ＝オフ） 「C」オーバービューモード 　（クライアント領域またはフォーカスウィンドウの表示） 「M」マウスエミュレーションモード 「S」マウス連動モード

２ページ目

マウスエミュレーションモードの時

1行目	「カラー情報」（タイトル）
2行目 3行目 4行目	マウスポインタのある移置のカラー情報 　（ＲＧＢそれぞれの値） 「R　ｎｎ」Red 値（0～255） 「G　ｎｎ」Green 値（0～255） 「B　ｎｎ」Blue 値（0～255）

その他（ステータス情報２）

1行目	「ステータス２」（タイトル）
2行目	位置情報

３行目	「X　ｎｎｎｎ」ウィンドウ内での左右位置 「Y　ｎｎｎｎ」ウィンドウ内での上下位置 オーバービューモード時 　　ビュースコープの右下位置 その他 　　表示範囲の右下位置
４行目 ５行目	ウィンドウの大きさ 「WX　ｎｎｎｎ」ウィンドウの横幅 「WY　ｎｎｎｎ」ウィンドウの高さ

３ページ目

スクロール幅の設定

矢印キーを押した時表示範囲がスクロールするドット数を指定します。

１行目	「スクロール幅」（タイトル）
２行目 ３行目	スクロール幅の設定値 「ＳＸ　ｎｎｎｎ」…横方向のスクロール幅 「ＳＹ　ｎｎｎｎ」…縦方向のスクロール幅

スクロール幅設定値の変更

上キー	縦横のスクロール幅を１ドットに設定
センターキー	縦横のスクロール幅を点図表示部の 半分の大きさに設定（起動時の設定）
下キー	縦横のスクロール幅を点図表示部の 大きさに設定
方向キー	縦横のスクロール幅を変更

第２章Bmp View　Ver. 4.0

２－１ BmpViewの概要

　BmpViewは、ビットマップ情報を点図ディスプレイに表示するためのソフトウェアです。アプリケーションのウィンドウで一度に表示しきれないような大きなビットマップ情報でも、効率よく触読することができます。対応OSは、Windows XP～Windows7です。

　BmpViewの操作は基本的にGViewと同じですので、新しく覚える必要はありません。
「オーバービューモード」では、GViewと同様に、ビットマップ情報全体のイメージを圧縮表示で見ながら、効率的に拡大表示する部分を選択することができます。
BmpViewでは、既存のビットマップ情報を表示するだけでなく、GViewで保存したウィンドウのイメージを引き継いで、触読することができます。
BmpViewでは、ビットマップデータの中で今点図表示している範囲が、画面上の赤い枠で示されるため、晴眼者の人と一緒に触読の練習をする時などに便利です。
もちろん、マウスやキーボードからの操作で、点図表示範囲を移動させることもできます。

２－２ 起動手順

　BmpViewをご使用の際は、次の手順で起動してください。

１）ドットビューとパソコンの接続

２）　ドットビューとパソコンの接続

ドットビューDV-1をパソコンと接続する場合は、次の手順で接続してください。

①　パソコンを起動します。
②　「ドットビューDV-1」とパソコンを、付属の RS-232C クロスケーブルで接続します。
③　双方の電源スイッチをオンにします。

３）BmpViewの起動

BmpViewを起動すると、次のようなダイアローグボックスが表示されます。

- 接続ポートの選択（ダイアローグボックス）
- 接続ポート（コンボボックス）　＝ Com1～Com10
- 接続されている機器（コンボボックス）　＝　「DotView DV-1」,「DotView DV-2」,「GD-64×48」
- OK（ボタン）
- キャンセル（ボタン）

④　「接続されている機器」に「DV-1」を、接続ポートに「ドットビュー」を接続している通信ポートを選択して、［ＯＫ］キーを押してください。
⑤　すると、BmpViewのメインウィンドウが表示されます。
⑥　ここで「ファイル」メニューから「開く」を選び、表示したいビットマップ情報を選択してください。
⑦　ビットマップ情報が選択されると、画面表示と点図表示が開始されます。

　但し、BmpViewでGViewの表示内容を引き継いで表示させたい場合、BmpViewはGViewから自動的に起動されますので、予め手動で起動しておく必要はありません。
　また、BmpViewのウィンドウをGViewで表示するには、BmpViewの表示メニューにある「表示の中断」コマンドを実行してください。
　このコマンドをもう一度実行すると、BmpViewの表示が再開します。

２－３ BmpView の操作方法

１）表示範囲のスクロールと移動

点図ディスプレイの表示範囲をスクロールするには、次のように操作します。

表示範囲のスクロールと移動［ドットビューからの操作］

方向レバー	１ドット単位のスクロール
矢印キー	半画面単位のスクロール
親指キー ＋ 左キー	ウィンドウの左隅
親指キー ＋ 右キー	ウィンドウの右隅
親指キー ＋ 上キー	ウィンドウの上隅
親指キー ＋ 下キー	ウィンドウの下隅

表示範囲のスクロールと移動［ＰＣ側での操作］

矢印キー，テンキー	１ドット単位のスクロール
Ctrl＋矢印キー	半画面単位のスクロール
Home キー	ウィンドウの左隅
End キー	ウィンドウの右隅
Ctrl＋Home キー	ウィンドウの上隅
Ctrl＋End キー	ウィンドウの下隅

２）拡大率の変更

点図ディスプレイの表示を拡大／縮小するには、以下のように操作します。
この場合、可能な限り、点図表示の中心を固定する形で拡大／縮小されます。

拡大率の変更［ドットビューからの操作］

センターキー	拡大（２倍表示）
親指キー ＋ センターキー	縮小（1/2 表示）

拡大率の変更［ＰＣ側での操作］

PageUp キー	拡大
PageDown キー	縮小

３）「オーバービューモード」と「ビュースコープ」

「オーバービューモード」は、ビットマップ情報全体を圧縮表示し、ビュースコープを使ってその中から拡大表示する部分を選択できる機能です。

オーバービューモードを開始するには、表示メニューで「オーバービューモード」をチェックするか、「ドットビュー」の上キー＋右キーを押します。オーバービューモードに入ると、ウィンドウ全体が圧縮表示され、その中の今まで表示していた部分にピンの震動した長方形が表示されます。この長方形が「ビュースコープ」です。ここでは、ビュースコープを移動させたり、拡大 / 縮小することができます。ビュースコープを目的の場所に移動できたら、表示メニューの「オーバービューモード」のチェックを外すか、「ドットビュー」で再度上キー＋右キーを押して、オーバービューモードを終了します。

ビュースコープが表示されている状態では、親指キーを押している間ビュースコープ以外の表示が中断されます。この機能を使用すると、ビュースコープの位置が分からない時、ビュースコープをより簡単に見つけることができます。

なお、オーバービューモードで 上キー＋左キーを押すと、ビュースコープの表示／非表示を切り替えることができます。

オーバービューモード［ドットビューからの操作］

上キー＋右キー	オーバービューモード開始
再度上キー＋右キー	オーバービューモード終了
親指キーを押している間	ビュースコープ以外の表示が中断
上キー＋左キー	ビュースコープ表示／非表示

４）二値化条件の調節

「二値化条件」とは、カラー画像情報を点図ディスプレイ上の各ピンのオン／オフに変換する際の変換条件のことです。二値化条件には、「閾値」（しきいち）と、「二値化モード」の２つの設定があります。

「閾値」（しきいち）は点を出すか出さないかを決める境界となる明るさで、0 から 255 までの 256 段階で設定できます。「自動調節」機能をオンにしておくと、閾値は表示する画像に合わせて自動的に調節されます。また、今表示している部分の色の分布を「明暗分布」表示で確認しながら、閾値を手動で調節することができます。

二値化条件の調節［ドットビューからの操作］

上キー＋下キー	自動調節機能＝オン（起動時の設定）
親指キー ＋ 上キー＋下キー	自動調節機能＝オフ
ステータスキー	明暗分布表示のオン／オフ
ステータスキーを長く押した状態	明暗分布表示
明暗分布表示状態で、 上キー	閾値を１段階ふやす
明暗分布表示状態で 下キー	閾値を１段階減らす

二値化条件の調節［ＰＣ側での操作］

表示メニューの［二値化条件の設定 ...］メニューを選択すると、設定用のダイアローグボックスが表示されます。

閾値を手動で変更すると、自動調節機能はオフになります。

「二値化モード」には、「明点」（閾値より明るい点）、「閾値」、「暗点」（閾値より暗い点）のそれぞれを出すか出さないかを指定する６種類の選択肢があります。

二値化モードの設定［ドットビューからの操作］

上キー ＋ センターキー	「明点」を表示
親指キー ＋ 上キー ＋ センターキー	「明点」と「閾値」を表示
下キー ＋ センターキー	「暗点」を表示
親指キー ＋ 下キー ＋ センターキー	「暗点」と「閾値」を表示
上キー＋下キー ＋ センターキー	「明点」と「暗点」を表示

親指キー ＋ 上キー＋下キー ＋ センターキー	閾値」を表示

二値化モードの設定［ＰＣ側での操作］

表示メニューの［二値化条件の設定 ...］メニューを選択すると、設定用のダイアローグボックスが表示されます。

「自動調節」機能をオンにしておくと、二値化モードは以下のように設定されます。
閾値の点が半分以上の時「明点」と「暗点」を表示
閾値の点が半分未満の時「明点」と「暗点」の内、点の数が多い方を表示
なお、二値化モードを手動で変更すると、自動調節機能はオフになります。

５）表示条件の保存と再現

今の表示位置や拡大率などの情報を保存しておいて、後で呼び出すことができます。

表示条件の保存と再現［ドットビューからの操作］

左キー＋上キー＋下キー	表示条件の保存
右キー＋上キー＋下キー	表示条件の再現

２－４ ステータスの表示

ステータス表示では、現在の表示範囲や拡大率など、BmpView の様々な設定情報が点字で表示されます。また、ステータス表示には３種類のページがあります。
ステータス情報の表示・ページに移動には以下のように操作します。

ステータス情報を表示

ステータスキー ＋ 親指キー	ステータス情報のオン／オフ
ステータスキー ＋ 親指キーを長く押した状態	ステータス情報を表示
左キーまたは右キー	ステータス情報のページに移動

１ページ目

ステータス情報（１）

１行目	「ステータス１」
２行目 ３行目	位置情報 「Ｘ　ｎｎｎｎ」…ウィンドウ内での左右位置 「Ｙ　ｎｎｎｎ」…ウィンドウ内での上下位置 オーバービューモードの時 　　ビュースコープの左上位置 その他 　　表示範囲の左上の位置
４行目	拡大率 「Ｄ　ｎｎ」 拡大率（点図の１ドットに対応する画面上のピクセル数)
５行目	表示モード

	「Ｂ」…ビットマップ情報表示モード 「Ｖ」…オーバービューモード 「Ｈ」…オーバービューモード （ビュースコープ＝オフ）

２ページ目

その他（ステータス情報２）

１行目	「ステータス２」（タイトル）
２行目 ３行目	位置情報 「Ｘ　ｎｎｎｎ」ウィンドウ内での左右位置 「Ｙ　ｎｎｎｎ」ウィンドウ内での上下位置 オーバービューモード時 ビュースコープの右下位置 その他 表示範囲の右下位置
４行目 ５行目	ビットマップ情報の大きさ 「ＢＸ　ｎｎｎｎ」…ビットマップ情報の横幅 「ＢＹ　ｎｎｎｎ」…ビットマップ情報の高さ

３ページ目

スクロール幅の設定

矢印キーを押した時表示範囲がスクロールするドット数を指定します。

１行目	「スクロール幅」（タイトル）
２行目 ３行目	スクロール幅の設定値 「ＳＸ　ｎｎｎｎ」…横方向のスクロール幅 「ＳＹ　ｎｎｎｎ」…縦方向のスクロール幅

スクロール幅設定値の変更

上キー	縦横のスクロール幅を１ドットに設定
センターキー	縦横のスクロール幅を点図表示部の 半分の大きさに設定（起動時の設定）
下キー	縦横のスクロール幅を点図表示部の 大きさに設定
方向キー	縦横のスクロール幅を変更

点図ディスプレイ用ソフトウェア取扱説明書
製品番号: GView Ver.4.0
2010年 6月10日作成